

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970400218		
法人名	有限会社 青い鳥		
事業所名	グループホーム 青い鳥		
所在地	高知県南国市篠原708-1		
自己評価作成日	平成30年9月21日	評価結果 市町村受理日	平成30年11月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

離職に伴う人員不足から日々の生活支援に精一杯ですが、利用者の気持ちや状況を常に考え、有資格者が一人ひとりに適した支援を心がけています。  
地域密着型共同生活事業所ではありますが、地域に密着した事業所づくりが十分出来ていない点が反省点の一つです。防災訓練だけに関わらず、事業所の理解を得るため、地域包括支援センターや市役所等から地域の行事、勉強会等の情報を得て参加し、地域に根差した事業所の展開を今後目標にしたいと思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970400218-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970400218-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年10月10日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は主要道路から少し入った静かな住宅地に立地し、手入れの行き届いた芝生の庭があって、利用者がいつでも屋外に出て芝生のベンチで外気浴が楽しめるようになっている。  
開設当初からの理念「基本的人権の保護」「家庭的な生活」「生きがいのある生活」「地域との共有」を職員間で話し合い、理念の意味するところを共有し、利用者一人ひとりのケアに取り組んでいる。  
職員は、全員介護の有資格者で固められている。職員間のコミュニケーションやチームワークは良好で、事業所運営やケアについての意見を皆で出し合い、利用者のサービス向上につなげている。  
終末期の支援については、協力医や訪問看護ステーションのバックアップ体制が整っており、事業所で安心して終末期を迎えられるよう取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: おおるり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を提示し、職員全体で目指す目標としている。理念の浸透を図り、実践につなげるよう意識づけを行っている。	毎月の職員会で理念の4つの項目について職員で話し合い、日々のケアの実践につなげているが、事業所自身の評価として、「地域との共有」の実践が不足しており、今後の課題として取組むようにしている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には近隣住民と挨拶を交わしたり、近所の商店へ買い物に行った際には、買い物客と話をしたりして、利用者は交流している。近所の保育園とも、行事(運動会や敬老会)の際には行き来が来ている。	自治会に加入し、会にも参加している。利用者は、日々の散歩などで出会う近隣住民と挨拶をし、会話も交わす交流をしている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域に認知症について理解してもらい機会があり、事業所での事例や対応方法を伝えている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者、事業所の運営状況、職員の研修状況等について報告している。また、各分野からの参加委員から意見をj得るよう努めている。	利用者、家族、民生委員、行政職員等が参加し、利用者、事業所の状況報告をして意見交換しているが、事業所は、地域代表の少なさ、協議内容の乏しさが「地域との共有」不足につながっていると自己評価している。議事録は不参加の家族に送付している。	地区長や地域の自主防災組織のメンバーを参加者に加え、事業所の理解を得て地域との協力体制を築くことと、外部評価結果、目標達成計画を協議議題として、事業所運営についても協議をすることを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のほか、市役所や地域包括支援センターに出向き、情報の共有やアドバイスを得ている。	地域包括支援センター開催の研修会に参加したり、運営推進会議では事業所の取り組みについて報告して、助言を得ている。支援困難事例の対応についても随時報告し、相談している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、全職員に周知徹底している。玄関は、夜間は防犯のため施錠しているが、日中は基本的に施錠していない。職員は、声掛けや安全確保を名目とする身体拘束については日ごろから注意し、無意識にしているか、常に介助時に意識するよう心掛けている。	身体拘束をしないケアについて、事業所内研修で職員に周知している。スピーチロックが見られた際には、管理者がその都度別の場所に職員を呼んで注意している。日中玄関は施錠せず、見守りで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、毎月の担当者会の際に、適切な言葉遣いや介助方法の話し合いが出来ている。また、職員は外部研修等に参加し、虐待防止の強化を図っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解している者もいるが、全職員への周知には至っていない。なんとなく理解している職員がほとんどで、学習の機会を作っていく。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り、詳細な説明を行っている。疑問等があれば納得が得られるまで説明をし、理解と納得を得たうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度家族会を開催し、職員抜きで家族と苦情相談員とで話し合う時間を十分設け、意見や要望、苦情等を得ている。また、参加出来なかった家族にはその都度情報提供を行いながら、運営に反映出来るよう努めている。	毎回の家族会には、15～16人の参加がある。家族と外部の苦情相談員だけで話し合う時間を設けて率直な意見が出せるよう配慮し、出された意見、要望は個別ケアに反映するように努めている。家族の来訪時には日頃の利用者の状況を伝え、意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の担当者会終了後にアフターミーティングを開催し、職員が意見を出し合い、運営に反映させている。管理者は、日常業務でのやりとりや会話等から率直な意見を聞き逃さないようにしている。	月1回の担当者会の後、職員会を行って、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は新人職員や発言の少ない職員には事前に意見を聞いたり、発言しやすいよう配慮している。休暇や勤務時間等の希望を聞き、働きやすい職場作りに努めている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	就業規則の改正等にも、職員全体の同意を得ながら取り組んでいる。職員の個々の努力や実績を評価するシステムも導入しているが、人員不足に伴い、十分な就業環境が整っていないのが現状となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足もあり、職員も部外の研修にはあまり参加できていない。月1回の担当者会後に、事業所内研修を実施しており、議題もその都度職員で考えている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議や、同事業所で行われている認知症家族の会にも参加し、介護する家族の気持ち、介護される側の気持ちを考える事が出来る勉強会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前見学も受け入れており、入所前には事前面接を必ず行い、時間を取って、本人、家族の思い、希望を引き出せるようにしている。自分の思いが出しやすい環境をつくり、本人の不安や希望、何を求めているか等について、理解するよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の不安な思いや要望等を、家族の立場に立ってしっかりと傾聴し、把握して、信頼関係が構築できるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に現在の状況を聞いているが、空き室がないことや、待機者が多数であることから即入所出来ない場合もある。そのため、早急な支援が求められる場合には、他施設のサービスや在宅サービスについても説明、紹介しながら、対応をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろから本人のバックグラウンドをもとにコミュニケーションにつなげたり、喜怒哀楽を共有できる関係を深めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	職員がすべて支援するのではなく、可能な限り家族の協力を得ながら、家族と共に支え合っていける関係作りを努めている。		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	馴染みの人や場所との関わりが途切れることのないように、重度化していない利用者については、家族と相談の上、一緒にの外出を依頼している。	家族と一緒に行きつけの美容院や花見、買い物に出かけたり、自宅に外泊をする利用者もいる。友人から手紙が届いたり、友人の来訪のある利用者もおり、馴染みの人や場所との継続支援に努めている。	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同士の会話も多く、自分から積極的に話し掛けられていることもあって、利用者同士の関わりは継続している。困っている利用者には声かけしたりしており、励まし合っている場面も多い。		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退所後、家族から相談の電話があり、その時の状況でどのようなサービスが必要かを家族と話し合い、アドバイスをした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	意思表示が出来る利用者は思いも把握しやすく、それを尊重することが出来ている。重度化で思いを自分から発せられない利用者は、家族の思いや希望をケアプランに取り入れ、意向が汲み取れるよう努めている。	入所時に本人、家族から思いや意向の確認をしている。職員は日頃の行動や言動、表情からも意向の把握に努め、職員間で共有して、日々のケアに反映させている。	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	生活歴や生活環境などの情報をアセスメントシートから把握したり、担当していた居宅介護支援事業所からの情報提供で把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での利用者の言動や、一日の行動、心身の状態をしっかりと観察し、個人経過を記載して、気づきを得ている。気づきは月1回の担当者会で検討を行い、支援につなげている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会で意見交換を行っている。家族にはその都度介護計画の説明を行い、家族の要望や本人の要望、医療の意見や現場職員の意見を反映した介護計画書を作成している。	担当者が3ヶ月毎にモニタリングし、利用者や家族の意見を聞き、担当者会で検討して、利用者の現状に即した介護計画の見直しをしている。利用者の状態変化の際には随時見直し、現状に即した介護計画に変更している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、利用者の状況、介護計画実践内容を記載し、申し送り時に情報共有を行っている。また、精神面や身体面等で新たな職員の気づきがあればその都度記載し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化により受診が必要な際には、早急な対応をしている。本人や家族の希望に沿い、病院受診も対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師の訪問美容を受けたり、消防署の指導による防火訓練、地域の保育園との交流等により、地元住民と関わる機会を持ち、豊かな暮らしが継続出来るように支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視し、適切な医療が受けられるよう支援している。家族が通院に付き添う際には本人の日々の詳細な情報を提供したり、要望に応じて職員が同行受診するなど、柔軟に対応している。	入所時に利用者、家族の意向を確認しているが、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医として、2週間に一度往診を受けている。協力医以外の受診は家族対応だが、都合のつかない場合は職員が同行し、書面で情報提供して、結果は個人記録に添付して、職員が共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携体制が出来ており、日々の状態などについて報告、連絡、相談を行い、その都度指示を得て、対応するように努めている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は本人のダメージが最小限となるよう情報交換や相談などで医療機関と密な連携を図り、早期退院が出来るよう、家族とも情報共有している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化やターミナルケアの対応について指針に沿って説明し、同意を得ている。状態の変化に応じて主治医、家族、事業所で話し合いを行い、方針を共有しながら支援するようにしている。	入所時に看取りの指針に沿って説明し、希望を確認して、「重度化に伴う意思確認書」で同意を得ている。協力医や訪問看護ステーションのバックアップ体制も整っており、希望があれば事業所での看取りを行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルなどの手順に関して職員の目に触れるようにし、職員に徹底すると共に、月に1回の担当者会の際に、リスクマネジメントや緊急時の対応なども学んでいる。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所防火管理者を中心に、常に災害に対する意識づけをしている。地元消防団、職員との連携を蜜にしながら年3回訓練を実施するとともに、消火器の定期的点検、災害に備え栄養補助食品、飲料水も備蓄している。	日中想定火災訓練を年2回、地震想定を年1回実施している。訓練実施時は近隣住民に参加の声掛けをしているが、参加は得られていない。災害用備蓄品について、飲料水は3日分確保されているがその他の食品等については不足している。	運営推進会議のメンバーに地域の自主防災組織や消防団員等を加え、日ごろから災害時の地域の協力体制を築くことと、必要量の備蓄品を早急に確保することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保に関する支援については理念にも掲げており、個人情報の保護に努めている。本人を尊重した声掛け、声のトーンなどに注意している。意思疎通の困難な利用者にも、必ず名前を呼び、今から何をするかを伝え、人格の尊重に努めている。	理念の「基本的な人権の保護」について職員で話し合い、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。管理者は、排泄誘導時の目立たない声掛け等、職員の介助方法に注意して、利用者の人格を損ねない対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で行うのではなく、利用者につかの選択肢を提供し、自ら自己決定出来るよう配慮している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日々の体調に配慮しながら、可能な限り自分のペースで生活できるよう支援している。その日の過ごし方について、その都度本人の同意を得て、確認しながら、その人らしい過ごし方を支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、職員と一緒に好みの服を選んだり、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。好きな化粧品や洗顔料を使用してもらうことで、その人らしさを支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理だけでなく調理過程を楽しんでもらえるように、台所付近で調理の様子を見学したり、味見や匂いを感じたりしてもらえるよう支援している。また、台拭きやランチョンマットを敷いてもらう等、利用者には、食事前の準備を手伝ってもらっている。	食材は一括購入し、まとめて調理している。利用者も台拭きやランチョンマットを敷くなど、できることを一緒にしている。職員も、食事の介助をしながら利用者と同じものを一緒に食べている。家族等から野菜の差し入れもあり、おかずの一品に添えられている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や食事量に合わせ、高カロリーのものや個人の好物の補食で対応している。水分も、個人に合わせ、医師の指示等調整している。水分摂取量を確認し、1日の水分摂取量が確保できるように支援している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、個々に応じて声掛けや一部介助で口腔ケアを実施している。義歯使用の利用者については、入床時に洗浄剤を使用し、清潔を保っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定時の声掛けで出来るだけトイレでの排泄が出来るようにしている。オムツは出来るだけ使用しないケアに努めている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、個々の時間に合わせたトイレ誘導時には羞恥心を配慮した声掛けに努めて、トイレでの排泄を促している。夜間もできるだけトイレで排泄できるよう支援し、ポータブルトイレ使用者はいない。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の摂取を心がけている。歩行訓練等、運動の確保にも努めており、自然排便が出来るよう努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば時間を問わず、本人の意向に沿って入浴に対応している。また、入浴を楽しんでもらえるよう、好みのシャンプーや好みの湯温、湯の量等に細かく配慮している。	利用者の希望に沿った入浴支援で、毎日入浴を楽しんでいる利用者もいる。入浴拒否のある利用者も散歩をして気分を変えたり、入浴剤を入れたり等の工夫で、全員が3日以上入浴しない日が続かないよう支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については、個々の状態に合わせて自室で休める時間や、ソファで寛げる時間をつくっている。夜間の就寝時には、室内の明るさ、室温、温度調整を行なう等により安眠が出来るよう、支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し、服薬変更があった際には記録や伝達ノートに記入して、確認している。職員全員がすぐに確認出来るよう、薬の副作用等が記載された物を薬品庫に保管している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で自分に出来る役割を見つけ、洗濯物干し、取り込み、ハンガー掛け等他の利用者と一緒に楽しみながら参加出来るよう、支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩、買い物等の支援をしている。スーパーや近所の商店へ買い物に出掛け、気分転換が図れるよう、支援している。	日ごろの散歩のほか、職員と一緒に近所の駄菓子屋に出かけたりしている。家族の協力で買い物や美容院に出かける利用者もいる。年数回、事業所の行事として土佐の豊穰祭やよさこい祭りに出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談のうえ、事業所管理をすることになっているが、家族了承のもと、個人で持っている利用者もいる。買い物の際には、可能な範囲で本人が支払えるよう支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族了承のもと、本人の希望に応じて電話を掛けたり、手紙を書く支援をしている。家族や友人との関係にも配慮しながら、支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には行事の際の写真や普段の事業生活の写真を飾っており、写真を見ながら会話ができるよう、環境にも工夫している。また、椅子や車いすの置き場所にも配慮しながら、危険のない空間づくりを心掛けている。	食堂、居間は広く、天井は吹き抜けになっており、明るく開放的な空間になっている。広い廊下には歩行の妨げにならないように観葉植物が飾られ、利用者は、ソファーや畳スペースでゆったりと過ごすことができる。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファーが二つあり、テレビを観たりソファーに横になったりと、思い思いに過ごせる空間がある。また、個々の定位置を尊重しながら、各々がゆっくりとくつろげるように配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や思い出の物を飾ったりして、居心地の良い、落ち着いて過ごせるような空間づくりを心掛けている。また、長年使用している使い慣れた家具等も、継続して使用出来るよう調整している。	家族の写真、お気に入りの人形や家具、自宅で使っていたテレビなど、本人の使い慣れた物や趣味の物を持ち込み、居心地の良い居室になっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ、回転、固定の椅子を使用しており、毎月の担当者会でも、安全に生活が送れるよう話し合いを行っている。また、トイレや居室に名前の張り紙をして、混乱を防ぐよう努めている。		

ユニット名:

おおるり

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: やいろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関に理念を提示し、職員全体で目指すものとしている。理念の浸透を図り、実践につなげるよう意識づけを行っている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た際には近隣住民と挨拶を交わしたり、近所の商店へ買い物に行った際には、来客者と話をしたり、少ないながらも交流はしている。近所の保育園とも、運動会や敬老会の際には行き来が出来る。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域住民に認知症について理解してもらう機会があり、事業所での事例や対応方法を伝えている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況、事業所の運営状況、職員の研修状況等について報告している。各分野からの参加委員から、意見を得るように努めている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のほか、市役所や地域包括支援センターに出向き、情報の共有やアドバイスを得ている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、全職員に周知徹底している。夜間は防犯のため施錠しているが、日中は基本的に施錠していない。声掛けや環境による身体拘束について普段から注意をし、無意識にしているか、介助時に意識するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、毎月の担当者会の際に、言葉遣いや介助の仕方等について話し合っている。また、外部研修等にも参加し、職員に虐待防止を徹底している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解している職員もいるが、全員への周知には至っていない。なんとなく理解している者がほとんどで、学ぶ機会を作っていきたい。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り、詳細な説明を行っている。疑問等があれば納得してもらえるまで説明し、理解や納得を得たうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度家族会を開催し、職員抜きで家族と苦情相談員との話合いの時間を設けて、意見や要望、苦情等を得ている。また、参加出来なかった家族には、その都度情報提供を行いながら運営に反映出来るよう努めている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の担当者会終了後にアフターミーティングを開催し、職員が意見を出し合うことで運営に反映している。また、日常業務でのやりとりや会話等の率直な意見も、聞き逃さずに反映している。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の改正等にも、職員全体の同意を得ながら取り組んでいる。職員の個々の努力や実績を評価するシステムも導入しているが、人員不足に伴い、十分な就業環境が整っていないのが現状となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足もあり、部外の研修にはあまり参加できていない。月1回の担当者会後に、事業所内研修を実施しており、議題もその都度職員で考えている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議や、同事業所で行われている認知症家族の会にも参加し、介護する家族の気持ち、介護される側の気持ちを考える事が出来る勉強会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前見学も受け入れており、入所前には事前面接を必ず行い、時間を取って、本人、家族の思い、希望を引き出せるようにしている。自分の思いが出しやすい環境をつくり、本人の不安や希望、何を求めているか等について、理解するよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の不安な思いや要望等を、家族の立場に立ってしっかりと傾聴し、把握して、信頼関係が構築できるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に現在の状況を聞いているが、空き室がないことや、待機者が多数であることから即入所出来ない場合もある。そのため、早急な支援が求められる場合には、他施設のサービスや在宅サービスについても説明、紹介しながら、対応をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろから本人のバックグラウンドをもとにコミュニケーションにつなげたり、喜怒哀楽を共有できる関係を深めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	職員がすべて支援するのではなく、可能な限り家族の協力を得ながら、家族と共に支え合っていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	関わりが途切れることのないように、重度化していない利用者に関しては、家族に外出支援を依頼している。		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同士の会話も多く、自分から積極的に話し掛けられていることもあって、利用者同士の関わりは継続している。困っている利用者には声かけしたりしており、励まし合っている場面も多い。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退所後、家族から相談の電話があり、その時の状況でどのようなサービスが必要かを家族と話し合い、アドバイスをした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	意思表示が出来る利用者は思いを会話から把握し、その思いを尊重することが出来ている。重度化し、思いを発せられない利用者に関しては、家族の思いや希望をケアプランに活かし、意向を汲み取れるよう努めている。		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	生活歴や生活環境などの情報をアセスメントシートから把握したり、担当していた居宅介護支援事業所からの情報提供で把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での利用者の言動や、一日の行動、心身の状態をしっかりと観察し、個人経過を記載して、気づきを得ている。気づきは月1回の担当者会で検討を行い、支援につなげている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会を開き、意見交換を行っている。家族にはその都度介護計画の説明を行い、本人、家族の要望、医療側の意見や現場職員の意見を反映したケアプランを作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の様子や変化、プラン実践状況の内容を記載し、申し送り時に情報の共有と意見交換を行っている。また、精神面や身体面等で新たな気づきがあればその都度記載し、ケアプランの見直しを行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化により受診が必要な際には、早急な対応を実施している。本人や家族の希望に沿い、受診同行にも対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師の訪問理容を受けたり、消防署の指導による防火訓練、地域の保育園との交流等により、地域住民と関わる機会を持ち、豊かな暮らしが継続出来るように支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視し、適切な医療が受けられるよう支援している。家族が受診に付きそう場合は、本人の日々の詳細な情報を提供したり、要望に応じて職員が付き添うなど、柔軟に対応している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携体制が出来ており、日々の状態などについて報告、連絡、相談を行い、その都度指示を得て、対応するように努めている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、本人のダメージが最小限となるよう情報交換や相談など、医療機関と緊密な連携を図り、早期退院が出来るよう家族との情報共有もしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化やターミナルケアの対応について指針に沿って説明し、同意を得ている。状態の変化に応じて主治医、家族、事業所で話し合い、方針を共有しながら支援するようにしている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルなどの手順に関しては目に触れるようにし、職員に徹底すると共に、毎月の担当者会の際に、リスクマネジメントや緊急時の対応なども学んでいる。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所防火管理者を中心に常に災害に対する意識づけをしている。地元消防団、職員との連携を図りながら年3回の訓練を実施するとともに、消火器の定期点検を行うほか、災害に備え栄養補助食品、飲料水も備蓄している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保については理念にも掲げており、個人情報の保護に努めている。本人を尊重した声掛け、声のトーンなどに注意している。意思疎通が困難な利用者にも、必ず名前を呼び、今から何をするか伝えて、人格の尊重に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で行うのではなく、いくつかの選択肢を提供し、自ら自己決定出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調に配慮行いながら、可能な限り自分のペースで生活できるよう支援している。その日の過ごし方について、その都度一つひとつ本人の同意を得て、確認しながら、その人らしい過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、職員と一緒に好みの服を選んだり、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。好きな化粧品や洗顔料を使用することで、その人らしさを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理だけでなく調理過程を楽しんでもらえるように、台所付近で調理の様子を見学したり、味見、匂いが感じられるよう支援している。また、台拭きやランチョンマットを敷く等、食事前の準備も利用者手に伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や食事量に合わせ、補食として高カロリーのものや個人の好物で対応している。水分摂取量も医師の指示等に合わせ調整している。摂取量の少ない場合は嗜好物を提供し、1日の水分摂取量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に個々に応じて声掛けや一部介助で口腔ケアを実施している。義歯使用の利用者については、入床時に洗浄剤を使用し清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が出来るように排泄パターンを把握し、定時の声掛けを行い、出来るだけオムツは使用しないケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の摂取を心がけている。歩行訓練等、運動の確保にも努めており、自然に排便が出来るよう努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば時間を問わず、本人の意向に沿って入浴している。また、入浴を楽しんでもらうため、好みのシャンプーや好みの湯の温度、量等を細かく配慮している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については、個々の状態に合わせて自室で休む時間や、ソファでくつろげる時間を設けている。夜間就寝時には、室内の明るさ、室温、温度の調整を行なう等、安眠が出来るよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成しており、服薬に変更があった際には記録や伝達ノートに記入して確認している。職員全員がすぐに確認出来るよう、薬の副作用等が記載された物を薬品庫に保管している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活していく中で自分に出来る役割を見付け、洗濯物干しや取り込みとたたみ、ハンガー掛け等を他の利用者者と一緒に楽しみながら参加出来るよう、支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩、買い物等の外出支援をしている。スーパーや近所の商店に買い物に出掛け、気分転換が図れるよう、心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談のうえ、事業所で金銭管理しているが、家族の了承のもと、個人で持っている利用者もいる。買い物の際には、可能な範囲で本人が支払えるよう支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族了承のもとに、本人の希望に応じて電話を掛けたり、手紙を書く支援している。家族や友人との関係にも配慮しながら、支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には行事の写真や普段の事業所生活の写真を飾っており、写真を見ながら会話が出来るよう、環境にも工夫している。また、椅子や車いすの置き場所に配慮しながら、危険のない空間づくりを心掛けている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファが二つあり、テレビを観たり、ソファに横になったりと、思い思いに過ごせる空間がある。また、利用者各々の定位置があるため、それを尊重しながら、各自がゆっくりとくつろげるように配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や思い出の物を飾ったりして、居心地の良い、落ち着いて過ごせるような空間づくりを心掛けている。また、長年使用している使い慣れた家具等も継続して使用出来るよう、調整している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ、回転、固定の椅子を使用しており、毎月の担当者会でも、安全に生活が送れるよう話し合いを行っている。また、トイレや居室に名前の張り紙をして、混乱を防ぐように努めている。		

ユニット名:

やいろ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない